

いく。その際に、図書館の利用のニーズを改めて把握するとともに、今後の人口動態や現有の建物の制度も考え合わせ、運営形態についても現行の直営のままか指定管理にするのかということも含めて議論していかねばならない。

**問** 県立医大を中心としたまちづくりにおいて、万葉ホール周辺はポテンシャルの高い場所と言える。図書館は重要になってくると思うが考えは。

**答** 医大周辺公共施設を含めた公有地や周辺未利用地を有効活用し、医大病院が近くにある利点を活かして必要な機能の導入を進めるなど、県、医大、市だけではなく、民間の活力を導入した新たなまちづくりの展開を図ることが必要である。また、大和八木駅から檀原神宮前駅までの都市軸を活かし、医大病院だけではなく万葉ホール、中央公民館を初めとした公共施設へのアクセス及び各施設間のアクセスの向上を図り、徒歩や自転車で行遊できるネットワーク環境を構築するなどの整備も欠かせないと考えている。

**問** 第3次総合計画後期基本計画に「知の拠点となること

を目指して」とある。図書館づくりをまちづくりとして捉え、実施計画を立てていただきたいが、まちづくりの観点から市長の考えを聞きたい。

**答** 喫茶コーナーがあったり、BGMが流れていたり、また自習ができたり、落ち着いて十分に時間を堪能できる図書館が求められているのではないかとと思う。医大周辺のまちづくりの中で、万葉ホール、中央公民館も含めて市の施設の役割をもう一度考え直し、利用しやすく、喜んでもらえるものにするために考えてみるのも一つかなと思う。



檀原市立図書館

一般質問  
奥田 寛  
(至誠会)

世界遺産  
医大前新駅と  
周辺道路整備

**問** 公費のホテルに30億円投入するくらいなら、世界遺産に30億円投入すべきだと思

入するくらいなら、世界遺産に30億円投入すべきだと思。ホテルを作っても世界遺産は実現するとは限らないが、世界遺産を目標に電線電柱の地中化など、緩衝地帯（バッファゾーン）の整備を行えば、観光客は増える。緩衝地帯はいつ設定するのかと何年も前から聞いているが、いつまでも決まらない中で、今、逆に、県立医大周辺道路整備の二期工事として畝傍山周辺の自然風致エリア内に電線・電柱が新たに設置されかねないような計画も進んでいる。市の考えは。

**答** 世界遺産条約履行のための作業指針において、資産の適切な保全に必要な場合は、適切なバッファゾーンを設定することと示されており、飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群の構成資産において、必

要範囲をバッファゾーンとして設定する予定である。現時点では、景観や眺望を保全することを目的として定められている現行法令を適用して保全措置を図る方針であるが、世界遺産飛鳥・藤原登録推進協議会において、国内外の専門家などのアドバイスをいただきつつ、常にバッファゾンの設定を意識し、今後さらなる検証を行う予定である。

**問** 現行法令と言っても、風致の範囲と、景観条例の範囲では全然違うが。

**答** 包括的保存管理計画を進めており、それができればある程度のバッファゾンの提案ができる可能性はある。現段階で風致保全、市街化調整等々の区域で同一のバッファゾーンを設定する考えはない。

**問** 包括計画はいつできるのか。明日香村に遅れをとらずに共に世界遺産になっていくと言っているのであれば、明日香村と隣接しているところなど、緩衝地帯として景観を担保すべきだが、ガードレールの擬木化、電線・電柱の美装化、地中化など、インフラの更新時期に、公の裁量で自由にできることをしていない。熱意

が感じられない。千塚周辺はどうなっているのか。

**答** 熱意を持って業務に取り組んでいると自負している。また、例えば畝傍山周辺エリアであれば、市街化調整区域、農業振興地域、自然風致保全エリアという非常に厳しい規制を強いられている地域であり、そういう意味で、現行法令で対応していく。バッファゾンの設定と規制とは、また別の考えである。千塚周辺など、風致地区の周囲や明日香村との隣接地域については、公共施設の更新時には美装化等を十分意識して努めていく。新設の場合であったとしても、周囲になじむような整備が必要であると認識している。

公費ホテルと庁舎

**問** 檀原市が公費ホテル計画を立ててから、夏に医大前の30室のタウンホテルが潰れ、神宮前駅付近の100室のホテル建設計画も、民間業者が中止を検討し始めている。公費で140室ホテルを作っても、民間の130室を潰してしまつては、意味がない。九